

**TEIJIN**

Human Chemistry, Human Solutions



第26回 日本低侵襲脊椎外科学会学術集会  
26th Annual Meeting of the Japanese Society of Minimally Invasive Spine Surgery

## ランチオンセミナー 2

### 従来の問題点を改良した 新しい内視鏡システムの治療戦略

座長

聖隷淡路病院 特別顧問

長谷川 徹 先生

演者

角谷整形外科病院 院長

吉田 宗人 先生

2023年 **11月16日(木)** 11:30~12:30

アクロス福岡 「第2会場」

本セミナーは、日本整形外科学会教育研修単位として下記1単位を取得できます。

- 日本整形外科学会教育研修会専門医資格継続単位 (N) 必須分野「4:代謝性骨疾患(骨粗鬆症を含む)」「7:脊椎・脊髄疾患」
- 日本整形外科学会教育研修会脊椎脊髄病単位 (SS)

共催 第26回 日本低侵襲脊椎外科学会学術集会 / 帝人ナカシマメディカル株式会社

# 第26回 日本低侵襲脊椎外科学会学術集会 ランチョンセミナー2

## 従来の問題点を改良した 新しい内視鏡システムの治療戦略

演者

角谷整形外科病院 院長 **吉田 宗人** 先生

1998年に導入されたMED法は2003年に現在のショートスコープに改良され、広まっていた。しかしながら、椎間板ヘルニアから脊柱管狭窄症、椎間孔狭窄と適応は拡大されてきたが、機械の更なる改良が進まず、現在に至っている。その一方で2003年に導入されたPED法（最近ではFESSと称）では経椎間孔からの侵入に加え、ILアプローチも行われるようになり、徐々に両者の利点と欠点が明確になる中、演者は20年以上内視鏡下手術を執刀してきた経験から、MEDの改良版ではなく、MEDとFESSの両者の利点を組み合わせたSYNCHAシステムの開発に取り組み始めた。

まず、内視鏡は光学系の進歩により現在のスコープ径を4mmから2.9mmにしたが鮮明さは劣らず向上し、スコープ長はスタンダードでもショートでもレトラクターの長さを調整することにより一本で対応可能にしている。更にアタッチメントはイリゲーションチューブの採用により常に視界がクリアになり、それを装着することで内視鏡先端の洗浄が行える上、先端が汚れる度に抜いて拭き取る操作が不要となった。また、新作したボールリンク式レトラクターは、直径12,14,16,18mmの4種類から適したものを選ぶことができるだけでなく、ボールリンク機能を持たせたことでJoystick actionが可能となった。それに加えて、外側陥凹部で直接神経を圧迫している黄色靭帯を神経から引き離せるよう操作する黄色靭帯切除鉗子（キュレソン）等の処置具を併せて開発することで、内視鏡径が細くとも処置具と内視鏡そしてレトラクターが一体に使えるためworking spaceの減少も問題にならず、極めて良好な視野で安全に行えるように脊椎内視鏡に特化して改良、開発したこのシステムを総じてSYNCHAと我々は呼称している。

SYNCHAは進化、そして深化に繋がり、今後益々真価を発揮するシステムである事を確信している。本講演では、その優れた操作性と各種レトラクターに適応した症例を提示し、最近の18mm経レトラクターを使った腰椎MELIFや頸椎前方固定も紹介する。

製造販売業者

**TEIJIN**

**帝人ナカシマメディカル株式会社**

〒709-0625 岡山市東区上道北方688-1

TEL. 086-279-6278 FAX. 086-279-9510